

最初、後藤氏が空身で登りザイルをフィックス。次々にプルージックで登る。残置フィックスは切れ

場は2メートル程大丈沢に下って斜面を削った。この先、北鎌尾根まではまともな幕営地は期待でき

る者は1人もなかつた。

雪壁で始まり、上部は易しいが足もとがスパートと切れ落ちて高度感がある岩場だ。ここをア

イスバイル片手に下つて來た猛者がいたのには感心した。「最後まで慎重に行こう」と声をかける。全員登頂。素晴らしい展望と爽やかな日ざしに酔つ。熱いコンデンスマイルを回し飲みし、記念撮影。下山は先行パーティーがザイルを使つていたので、間を縫うよう下る。肩に下り、もう一度槍を仰ぐ。計画では肩で1泊だが、時間が早いので槍平まで下ることにする。大喰岳西尾根を下る予定だったが私の要望で西鎌尾根に変更した。気温が高かったので、雪面の不安定・万一の雪崩と荷物の重さなどを考えての提案だった。それと、私自身の体調で言うと、槍の山頂で目にゴミが入つて、片目が明けられない状態で、バリエーシヨンルートを続行する気力がやや薄らいでいた。ジャンクションの下でアイゼンを外し、ヤッケも脱ぐ。春山のような暖かさ。槍平に到着したが、小屋は営業していない。どうしてもビールが飲みたい、との皆の希望で、更に新穂高めざして下る。穂高牧場の小屋で一休み。小屋の奥さんと娘さんに泊まって行きませんかと誘われ、リーダーの決断で新穂高を30分目前にして、ナンパしてしまつた。

